



宮城県気仙沼市「田中浜のケヤキ」の後継樹が里帰り

りんぼく
ー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

ポイント

東日本大震災に伴う津波により水没する被害を受けつつも生き残った樹齢約200年の「田中浜のケヤキ」（宮城県気仙沼市）の後継樹（田中浜のケヤキの枝から増殖した苗木）が、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場から気仙沼市に里帰ります。

概要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター東北育種場（岩手県滝沢市）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、所有者等の要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行110番」を行っています。

今回は、気仙沼地方振興事務所から増殖の要請を受けた「田中浜のケヤキ」の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：令和6年3月27日（水） 12時30分

場所：田中浜（宮城県気仙沼市外畑）

問い合わせ先

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場

事業責任者：遺伝資源管理課 課 長 久保田 権（くぼた ごん）

担当者： 収集管理係長 織 邊 俊 爾（おりべ しゅんじ）

広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 濱 本 光（はまもと ひかる）

Tel：019-688-4518 Fax：019-694-1715

メールアドレス：touhokuikusyu@ffpri.affrc.go.jp

※取材される方は、事前に上記連絡先までご連絡ください。

本資料は、宮城県政記者クラブ、岩手県政記者クラブに配布しています。



背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。一方で、樹木の中には衰弱しているものもあり、後継樹を増殖することが求められていました。

このため、林木育種センター^{りんぼく}では、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りをを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 326 件の要請があり、248 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 4 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りするのは、宮城県気仙沼市の大島に生育していた樹齢約 200 年の「田中浜のケヤキ」です。

「田中浜のケヤキ」は、熊野神社境内の入口を示す目印として、約 200 年前に植栽されたものといえられてきました。平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う津波被害により水没したものの生き残り、令和元年 7 月時点で樹高が約 17m、幹周りが約 2.7m の大木となっていました。

しかし、「田中浜のケヤキ」の植栽されていた土地が東日本大震災からの復旧に伴う海岸防災林造成事業の計画地に該当することとなったため、地域から遺伝子保存の要望があり、気仙沼地方振興事務所から林木遺伝子銀行 110 番の申請を受けて、東北育種場が後継樹を育成していました。令和 2 年 2 月に東北育種場が「田中浜のケヤキ」から穂木の採取を行い、つぎ木で 10 本増殖を実施した結果 9 本の苗木を育成することに成功しました。今回里帰りする苗木は、このうちの 6 本で、田中浜に植栽されます。

この苗木は、つぎ木により増殖させたクローン苗木であることから、親木と同じ遺伝子を持っており、二代目の「田中浜のケヤキ」として成長することが期待されます。

図、表、写真等



令和元年当時の「田中浜のケヤキ」の原木の写真



「田中浜のケヤキ」の枝をつぎ木して育てた後継樹